

指)

頂度 「一致」「同じ」と同じ手まね。

ちよつと 「少し」と同じ手まね。

帳場 事務一部屋(或は「所」)

長男 初め(第一)―生れる―男性(中指)

帳面 掌を上に向け五指の指頭を右にさした左手、その指頭に掌を左側にし五指の指頭を上をさした右手の手首をつけ、その右手を横に長い帳面の表紙のつもりで、左手の掌上に合わせる(表紙を閉じる)大形の帳面を表わすには、掌を上に向け五指の指頭を右にさした左手の指頭に、掌を左側にし五指の指頭を上をさした右手の腕の肘をつけ(右手の肘までを表紙として)表紙を閉じるつもりで、右腕を左腕の上に重ね合わせる。

著名 「名高い」と同じ手まね。

地理 「地球」と同じ手まね。

沈黙 指頭を上をさした人差指で口を塞ぎ。

ツ

遂に 「終り」と同じ手まね。

就いて 「しに關して」の意味であるから

「關係」の手まねをする。

通学 学校―往き帰り(指頭を上をさした人差指を学校を表わした位置へ左右に往復させる。)

通勤 工場―往き帰り

通訳 役所

通用 「仲介」と同じ手まねをする。

通用 (イ) 金銭の通用。「高い」と同じ要領で金銭を表わした両手を上下にして交互にぐるぐると廻わす。(ロ) 世に通用する。「叶う」「適する」と同じ手まね。

杖 右手で杖を持って突く身振。

使う (ハ) 金銭を使う(金銭を表わした手を前に出す) (ウ) 人を使う。人々―仕事―命令(云いつける)

使い (ハ) 「用事」と同じ手まね。(ウ) 代り―用事―行く。用事が具体的に解って居れば、例えば「買物」「相談」「物を持って」等で表わすがよい。

疲れる 左手腕の上を右手掌で叩たいてがっかりとしたように両手を下に垂れる。

使い果たす 金銭使ひ―なくする。(左手掌の上に右手掌を十字に叩たき合わせて右へさっとすり離すいわゆるすってしまふの意味)。

月 月を表わす手まねに次の(ハ)(ウ)の二様式がある。(ハ) 掌を前向け、指頭を前方にさした親指と人差指の二指を広く開いて、三日月形を描くつもりで空間に縦に弧を描いて三日

月の下部を閉じるように、二指の指頭を合わせる。(ウ) 掌を内側にして五指の指頭を左にさした右手の親指と人差指で輪をつくりそれを頬に直角にあてがい(親指の爪の背を頬につける)、そこで人差指を前に弾じくようにして輪を開らく。

(ハ) の月は「何か月」の月にも、「何月」の月にも使われる。

「四ヶ月」とするには、(ハ)の月を手まねしてから「四」を表示する。

「四月」とするには、先ず四を表示してから(ハ)の月を手まねする。

尚、この(ハ)の月は天体の月そのものを意味する。

(ウ)の月は唯に「何ヶ月」の月にのみ使う。頬に指をあてがうのは、頬肉をさしたもので、肥、肌、肘等の文字の扁を「肉月」と呼ぶことからこの月の手まねが出来たものと思